

概要版

平成28年度 国頭村農業農村基盤整備事業計画策定業務

～計画的な農業農村整備事業の展開において～



貯水池(安波)



さやいんげん



キク



ユークンブ

国 頭 村
平成29年3月

はじめに

国頭村の農業は農業従事者の高齢化や後継者不足等に併せて、農業用水の不足や生産性の低い酸性土壌が農地のほとんどを占めるなど、地域特有の「農業の不利性」を抱え農業をとりまく環境は厳しい状況にあります。

そのため、「国頭村農業農村基盤整備事業計画策定業務」においては、農業の不利性を克服し、元気のある農業経営を目指して、通作条件整備や畑地かんがい、農業基盤整備促進事業等の各種「農業農村整備事業」を計画的に展開するための基礎資料を整理するとともに、農業農村整備事業の円滑な推進と、農業を中心とした地域活性化を図るため、ワーキンググループやワークショップを開催したものであります。

- 目 次 -

I 章 施策の目標・指標の策定	1
1. 施策の目標・指標の策定の考え方	1
2. 6次産業化に向けた施策の策定	3
II 章 ワーキンググループ	4
III 章 全体ワークショップ	5
IV 章 地域別の計画書・経済効果の算定	7
1. 事業計画について	7
2. 計画的な農業農村整備事業の推進	7
3. 土地改良法に基づく事業計画書の作成	9
V 章 今後の農業基盤及び地域づくりの参考情報の提供	10

国頭村農業農村基盤整備事業計画図

I 章 施策の目標・指標の策定

I 章－1. 施策の目標・指標の策定の考え方

平成27年度に作成した、「農業基盤整備促進基本構想」の施策の実現に向けて、ワーキンググループの意見内容を整理して、施策の指標の策定を行う。

(1) ワーキンググループの目的

「農業基盤整備促進基本構想」を推進していくために、行政と地域住民の連携を図りながら、各種取り組みを進めていく必要がある。

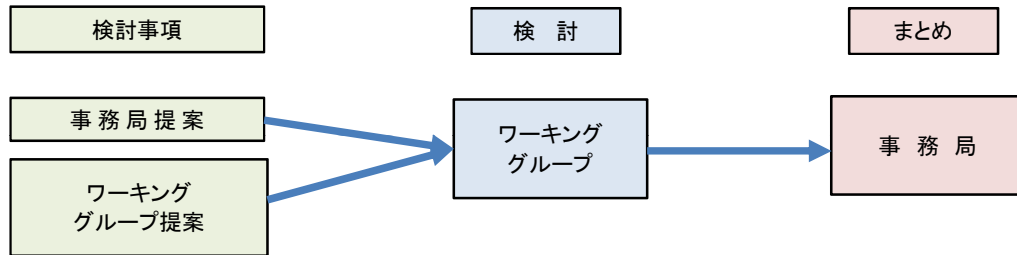
ワーキンググループはそれに向けて意見交換することを目的とする。

(2) ワーキンググループの内容

ワーキンググループの活動内容は、農業基盤整備促進基本構想のテーマと施策を実現するために、基本構想の内容について共有するとともに、地域活性化の目標・指標の検討を行い、「住民参加による村づくり気運の醸成」を図ることを内容とするものである。

今回のテーマは、定量的に目標・指標を設定することが困難であることから、ワーキンググループの意見を反映させて定性的な目標を定めることとした。

ワーキンググループの進め方



※事務局提案、ワーキンググループ提案等の検討資料について事務局で作成して、ワーキンググループに提示することとする。

(3) 施策の目標・指標の策定

ワーキンググループの検討内容を踏まえて以下のとおり整理する。

施策のテーマ	施策の基本方針	今後の対応方針
豊かな自然と共生できる農業	美しい農村の景観づくり	村の基本施策のひとつである「自然を愛し活かした、豊かで活力あるむらづくり」を実現するために、「美しい農村の景観づくり」を引き続き推進していく。
	土づくりと生産振興	連作障害の抑制、反収の向上を図り、自然と共生した持続可能な農業の展開を図るため、引き続き環境保全型農業直接支払い交付金の推進を検討していく。
	農業用水の確保	農業の不利性を克服して、農業の振興を図るため引き続き農業用水の確保に努めていく。
	赤土流出抑制対策	農用地及びその周辺の土地の土壌流出を防止し、農村地域の環境保全を図るため、ほ場勾配の急な農地に対して、ほ場勾配の修正や排水不良対策、農業排水路整備、農道の整備・改良などを推進し、農村地域の環境保全を図ることとする。
	防風林対策	台風による暴風や季節風の被害を抑えるため、防風林の整備については引き続き推進していく。
	猪垣、防鳥、防虫対策	猪の被害や、カラス、病害虫の生物被害等については、引き続きその対策を推進していく。

施策のテーマ	施策の基本方針	今後の対応方針
若者が夢をもてる農業	やりがいのある農業の展開	若者が農業を魅力とやりがいのある職業として意欲を持って取り組めるよう、引き続き国の給付金制度を活用して、新規就農希望者の円滑な就農を支援する。
	営農技術の支援	新規就農希望者が確実に就農・定着するためには、営農技術の支援は重要な事項であることから、北部農林水産振興センター農業改良普及課の新規就農者講座を修了した者について関係団体と連携して国頭村の地域にあった農業技術の研修を、今後検討していく。
	住居対策の支援	平成28年度に進めている「空き家対策計画策定に係る実態調査」の調査結果に基づいて建設課、企画商工観光課と連携しながら、対策を検討していくこととする。
	空き農地情報提供の支援	新規就農者が安心して就農できる農地を確保できるよう、引き続き農地中間管理事業、農業経営基盤強化促進法における利用権設定等、促進事業を並行して進めていく。
集落を 活用した農業	高齢者の活用	地域の高齢者を「日常の担い手としての高齢者」として位置づけて対応することは、高齢者の「生き甲斐」や「健康維持」にも役立つと共に、元気のある集落を目指し、村の活性化を図るために必要である。 そのため、仕事をリタイアして村内に居住している高齢者も含めて、引き続きその仕組みづくりに取り組み、繁忙期における人手不足の解消に向けての検討を進めていく。
	地域資源の活用	地域の雇用と所得を確保し、若者や子供が将来にわたって、国頭村に定住できる地域社会の構築を目指していく必要がある。そのため、地域資源としての「農作物」と「産業」を結び付けた、6次産業化の実現に向けて、引き続き取り組みを進めていく。
	集落営農の組織化	農村の高齢化、担い手不足、耕作放棄地対策として、集落営農の組織化に取り組むことが重要と考えられる。そのため、引き続き集落営農の組織化に向けて取り組みを進めていく。
ひとの交流が ひろがる農業	体験学習農園等の支援	近年国頭村においても、民泊の受け入れ体制が整えられて、年々修学旅行生を中心とした体験滞在型の観光客が増加している状況にある。そのため、各種農作物の栽培から収穫まで一元的に体験学習できる農園施設の整備について、引き続き検討を進めていく。
	6次産業化への支援	農業や農村の再生・活性化を図っていくためには、農林水産物をはじめ農村に存在する資源を有効に活用し、1次産業と2次産業としての製造業、小売り業等の3次産業の融合等による地域ビジネスの展開と新たな業態を創出し、「農業・農村の6次産業化」を推進していくことが重要となっているため、引き続きその取り組みを推進する必要がある。
	農村ワーキングホリデーの取り組み	農家の労働力不足の軽減、農業者と消費者の交流、地域定住のきっかけづくり等の効果があり、その取り組みを促進する必要がある。

I 章－2. 6次産業化に向けた施策の策定

○国頭村における6次産業化の可能性

1) 畑作物……直接販売のチャンネルを構築する、加工部門を強化する。

他の農家の野菜等を集荷し、供給力を高め、卸売りとして機能させ、都市部の消費者や需要者へ直接販売のチャンネルを構築する。これらの経営を基盤に直売店、レストランへ参入する。将来的にはカット野菜、漬物、その他加工部門を事業の中核とする。

2) 果樹……商品率アップ、そのための生産技術の開発を強化する。

消費者ニーズに合った生産品目の開発(新品種の導入を含めて)を進めることと併せて、品種ごとに収穫時期が限定されるため、複合的に品種を選んで、通年収穫できる状況をつくること。

また、生鮮品を収穫してから、最終消費者までできるだけ早く届けることに努め、「おいしい」生産品が正当に評価される仕組みづくりを構築する。以上のことを踏まえ、他の農家の果樹等を集荷し、供給力を高め卸売りとして機能させ、都市部の消費者や需要者へ直接販売のチャンネルを構築する。

これらの経営を基盤に「果樹」を日常的に食べる「場」づくりの提案を進め、果樹専門の直売店へ参入し、将来的にはカット果樹、漬物、その他加工部門を事業の中核とする。

3) 畜産……品質管理の優位性を活かす。

国頭村における畜産は以前から、生産や流通まで垂直統合されている企業が多いうえ、衛生面の問題から品質管理などでも、ほかの1次産業よりも先行している。方向性としては、厳しい産地間競争にあっても、こうした品質や安全性などの優位性を発揮させ、引き続き販路拡大や高付加価値に取り組み需要に応じた生産・販売戦略を構築していく。

4) 林業……多様な収益機会を構築していく。

森林の収益機会フローとストックで考えると理解しやすい。木材やオガコなどはフローで得られる収益であり、森の景観やレジャー施設などの空間は森林ストックである。この収益機会を林業の6次産業化の考え方と併せて考えれば、フローを活用するのが第2次産業、ストックを活用するのが第3次産業と整理して考えることができる。こうした多様な収益機会を6次産業化に活用する。

5) 漁業……商品の開発と経営の多角化を目指す。

農業以上に自然環境に左右されやすい漁業こそ、6次産業化の方向性による効果が期待される。水産物は、魚種ごと、産地ごとに、味覚や食感に大きな違いはないとされるので、商品への開発などの細かい相違点を製品戦略に盛り込んで、商品としての品質、量、パッケージを磨いていく。

市場出荷、販売所の経営、量販店との提携、生協などとの提携、物流専門業者やネット販売専門関係者との提携などのチャンネルが模索される。

○その実現に向けた施策の策定

農業や農村の再生・活性化を図っていくためには、農林水産物をはじめ農村に存在する資源を有効に活用し、1次産業と2次産業としての製造業、小売り業等の3次産業の融合等による地域ビジネスの展開と新たな業態の創出など、農林水産物の魅力を向上させるため、「農業・農村の6次産業化」を推進していくことが重要となっている。

○施策の方向性

- ・ 農林漁業者の生産出荷段階での創意工夫による農林水産物の付加価値向上に向けた取り組みの促進。
- ・ 農林漁業者による加工・販売の促進。
- ・ 農林漁業者による新たなサービス事業の創出の促進。
- ・ 地域の農林漁業者間の連携・協同による取り組みの促進。
- ・ 6次産業化に向けて女性や若者の参入促進。
- ・ 本村の農林水産物が備えている魅力を活かした交流の促進。



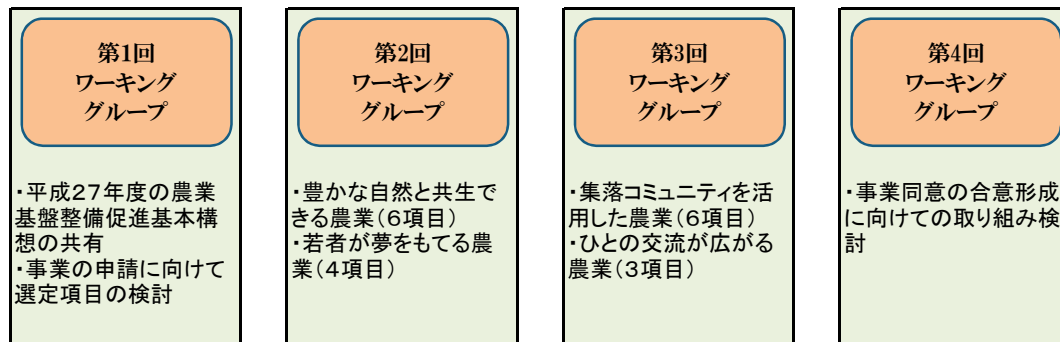
- ・ 農家の所得の向上
- ・ 雇用の創出
- ・ 地域の活性化

Ⅱ章 ワーキンググループ

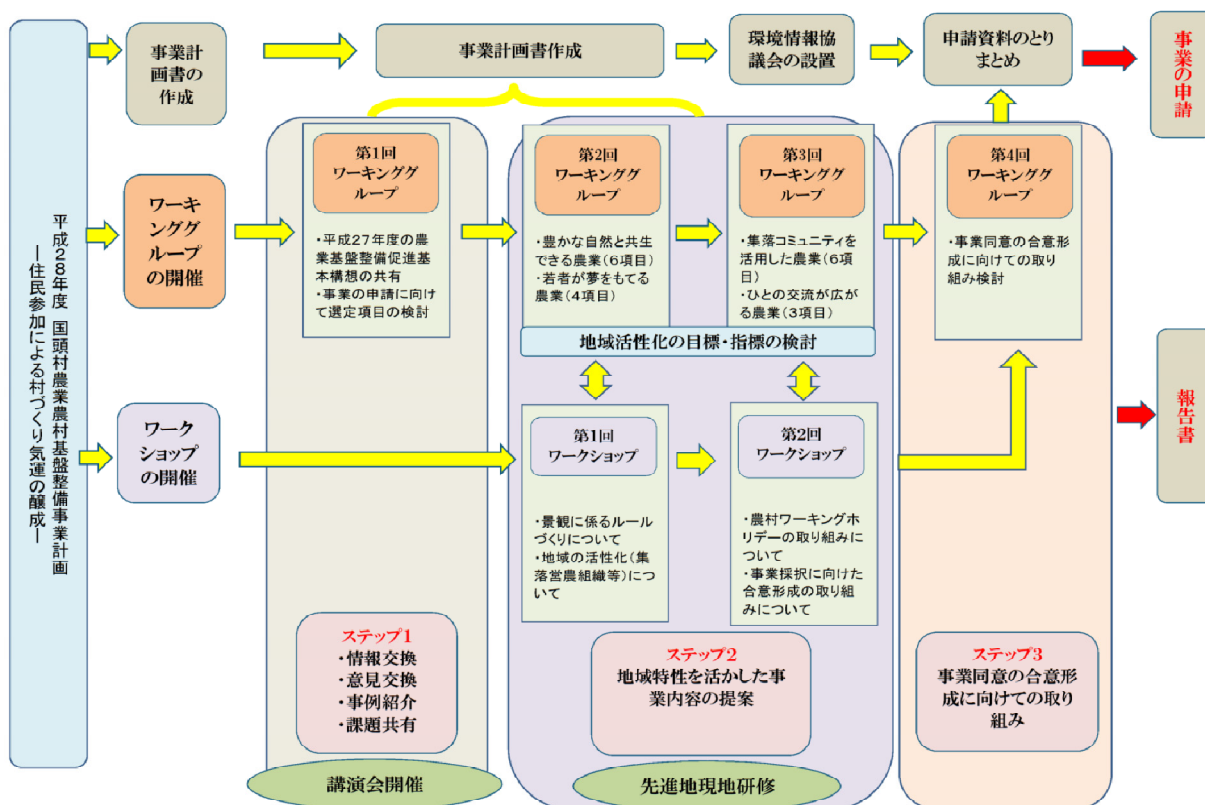
1. ワーキンググループの開催状況

「農業基盤整備促進基本構想」を推進していくために、行政と地域住民の連携を図りながら、各種取り組みを進めていく必要がある。

ワーキンググループはそれに向けて意見交換することを目的として以下に示すように4回開催した。



2. 平成28年度国頭村農業農村基盤整備事業計画策定業務の進め方



Ⅲ章 全体ワークショップ

地域住民の自由な意見を今後の農業農村整備事業の計画的な推進に反映させることを目的として2回のワークショップを開催した。

景観に係るルール作りについて

○第1回ワークショップのまとめ

	奥間地区	辺土名地区	西地区	東地区
キーワード	○農地の景観について ○海の景観について ○集落の景観について ○動植物の保護について ○農村と歴史の景観について	○農地の景観について ○森の景観について ○海の景観について ○川の景観について ○集落の景観について ○動植物の保護について ○農村と歴史の景観について	○農地の景観について ○森の景観について ○海の景観について ○川の景観について ○集落の景観について ○動植物の保護について ○農村と歴史の景観について ○その他	○農地の景観について ○海の景観について ○川の景観について ○集落の景観について ○動植物の保護について
グループの意見・提案	○集落の景観については草刈を行う、花いっぱい活動 ○景観向上を図るうえで花の苗を村が準備して欲しい ○海の景観については浜のゴミをできるだけ片づけたい ○農地の景観については年間を通した野菜畑の風景 ○景観に良くないので耕作放棄地はなくそう ○農村と歴史の景観については湧き水の整備利用等があった	○森の景観については村外からの観光客などにゴミの徹底処理を示す ○農地の景観については耕作放棄地を整備できるなら景観の向上につながる ○集落の景観については定期的な草刈り、枝うち作業 ○海と川の景観については海と川の間を月間をつくる ○動植物の保護については夜間の盗難を防ぐためのパトロールのアルバイトを行う 等があった	○森の景観については来村者へのマナーの呼びかけ ○農地の景観については担い手がいないで困難 ○集落の景観については若い人がいないため区の作業をするのが厳しい、地域の婦人会の活動の場として花を植える ○海の景観について防風林並木の再生 ○川の景観について川の水流れが悪い、草がたくさんある ○農村と歴史の景観については昔江戸岬までの通りに花を植えていた等があった	○農地の景観については棚田のオーナー制に取り組んでいる ○農道の草刈りなどを年1～2回程度取り組んでいる ○川の景観については奥川の瀬とか土手の再生に取り組んでいる ○集落の環境については子供会で空き瓶や空き缶拾いを月に2回程行い50年間続いている ○海の環境については、サーファー仲間が海岸の清掃をしている。一方週末の浜辺でのキャンプはゴミの放置がある、訪問者はゴミは持ち帰って欲しい 等があった

地域の活性化（集落営農組織等）について

	奥間地区	辺土名地区	西地区	東地区
キーワード	○担い手対策 ○耕作放棄地対策 ○協働による営農の取組み ○農産物の販路拡大 ○その他	○担い手対策 ○耕作放棄地対策 ○協働による営農の取組み ○農産物の販路拡大 ○その他	○担い手対策 ○耕作放棄地対策 ○協働による営農の取組み ○農産物の販路拡大 ○農産物の加工施設や特産品など ○その他	○担い手対策 ○耕作放棄地対策 ○協働による営農の取組み ○農産物の販路拡大 ○農産物の加工施設や特産品など ○その他
グループの意見・提案	○担い手対策として進めることについては、後継者がいない、若い就農者がいない ○協働営農対策として進めることについては、気のあう仲間 ○耕作放棄地対策として進めることについては放棄地の集団による活動、農地集積、農地の情報発信 ○農産物の販路拡大組織として進めることについては県外では沖縄産の野菜が人気である等が上がった	○担い手対策として進めることについては、農業を始める人の住む場所づくり ○協働営農対策として進めることについては、組織共同での活動、防除など、個別で難儀せずに共通の思いの仲間で活動していかなければいけない ○耕作放棄地対策として進めることについては、耕作放棄地を解消、人農地プランの活用 ○農産物の販路拡大組織として進めることについては作物毎での営農組織づくり 等があった	○担い手対策として進めることについては、農業している人が少ないため、昔のようなゆいまー精神が難しい、このままでは後輩へ農業を進める事は難しい ○耕作放棄地対策として進めることについては小さい農地の貸し出しを検討できないか ○農産物の販路拡大組織として進めることについては、無人販売の場の確保や各集落一つでできないか、地域で作っている作物を売りたい ○農産物の加工施設や特産品対策として進めることについては、集落営農は厳しいので、小規模の加工施設検討、作物の不良品の加工を行えるような場所が欲しい 等が上がった	○担い手対策として進めることについては、若者がいない、若者が働ける場所がない、集落営農の以前に担い手がいない若者がいない青年会がない ○耕作放棄地対策として進めることについては、借りている土地も管理されていない ○協働営農対策として進めることについては、世界遺産に認められればガイドを含め農業もしながら区一体となって組織を作る ○農産物の販路拡大組織として進めることについては作物に付加価値をつける ○紅茶ブランド化推進事業を活用して本格的に取り組んでいきたい、国頭の土壌は適している 等が上がった

ファシリテーターの発表



話し合いの状況



農村ワーキングホリデーの取り組みについて

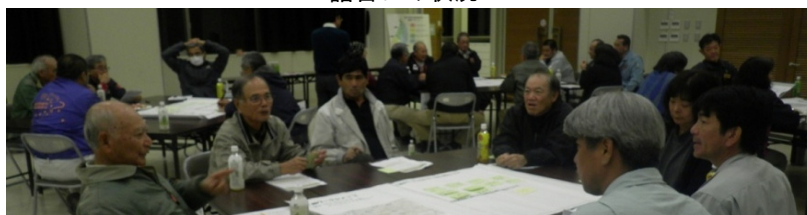
○第2回ワークショップのまとめ

	奥間地区	辺土名地区	西地区	東地区
キー ワード	○必要性 ○受け入れ態勢 ○不安	○必要性 ○受け入れ態勢 ○来てもらいたい人	○必要性 ○受け入れ態勢 ○来てもらいたい人 ○特に必要性がない	○必要性 ○受け入れ態勢 ○不安 ○特に必要性がない
グループの意見・提案	①必要性のある事として農家とボランティアとの仲介が必要 ②高齢化で手作業が出来ない部分の応援が必要 ③収穫の期間で一番忙しい時期に収穫の頻度にもよりますが、そんな時期に入れるように人の手配を、ボランティア、農援隊など入ってくるタイミングを上手く繋げればより良く出来るのではないかな ③食事や宿泊に伴う費用を農家と行政で折半できないか。食事や宿泊など農家の高齢化があり、提供する準備等が難しい ④初めて来る方を宿泊させるという事はとても気を遣う ⑤実際に居るスペースがない、例えばあっても掃除や寝具類の準備などに費用負担が発生しないか ⑥宿泊は公民館など活用し、食事については来てもらって提供する方法もあるのではないかな	①やってもらいたい事 ・タンカン・シークワサーの収穫時期に来てもらいたい ・防風林など高い所での作業もあり手間もかかる剪定作業 ・実が鳥に食べられないようネット張りの作業 ・剪定後の枯れ枝の片付け作業 ・花も収穫時期 ②どういう人に来てもらいたいかな ・即戦力になる人 ・作業の内容をある程度理解している人 ・林業をやっているようなベテランの人など ④受け入れ体制 ・年間を通して宿泊できるような施設を村内に2ヶ所程確保して世話は村内で動いてもらう等、方法もあるのではないかな ・地域で受け入れて公民館などで泊まってもらう等の意見もあった。 ・仕事(農作業)がそんなにない時などは2農家で見る事として、例えば3泊4日のうち2日はここで、1日は別で等の方法もあるだろう。 ・窓口は役場または農協	①窓口を役場で行って欲しい ②受け入れた方だけでなく来てくれる人に感謝していききたいと言う意見もあった。 ②重労働をさせてこき使うわけには行かない ③やっぱり来てもらうからには、又は来てもらえるように交流を大事にしていきたい、繁忙時期に来てくれてありがとうと感謝もしていきたい。 ③心配なのは繁忙時期が重なるため受け入れた方々が取り合いにならないかな。 ④空き家なども利用できないかな。	①窓口を役場に作る。 ②農家さんにそれぞれの農業カレンダー（1月～12月までの繁忙期カレンダー）を作ってもらって、それでワーキングホリデーの周知をして頂く。そこに参加希望者の受付を行って各農家さんを斡旋する形をとる。 ③農業を体験させながら食事を提供するのには時間的に厳しいという事で、現在行われている民泊の方々と一緒にタイアップしながらその地域で農業体験と民泊を取り入れたいのではないかな。 ④実際ワーキングホリデーを受け付けるにあたって人選はしっかりして頂きたい。以前に(体験)来たことがあるが足手まといで帰した事もあった。

事業採択に向けた合意形成の取り組みについて

	奥間地区	辺土名地区	西地区	東地区
キー ワード	○課題 ○進め方 ○説明会	○課題 ○進め方	○課題 ○進め方	○課題 ○進め方
グループの意見・提案	①まとめるリーダーがいないことが一番重要課題となっている。実際今農道の管理とか土地改良区の管理については集落単位で対応は出来ているので合意形成と言うか、地域の皆さんの協力は出来ているのではないかな ②事業採択に向けてやはり土地改良区では農地は地域毎で広さがあります。小さい地域についても事業に向けてどれぐらいの範囲で出来るのか気になる ③広い土地改良区については5ヶ所の地域が絡んでいます。それ以外にも農家としては違う地域から来ている方もいる。それに伴う合意形成は本当にできるのか難しいのではないかな ④事業採択に向けて地域で話し合うという事も大事ではあるが、実際事業について全く分からない。事前に費用も含め、こう言う事業は費用が出ないとか、負担がなければ早く進んでまとまりやすいのではないかな。必要性の高い所もあるのですが、事前にそういった情報も役場からあれば前向きに進めやすいのではないかな	①辺土名地区は農家もたくさんいるし作物もいろいろあります。伊地や与那については辺土名とは違い農家数が少なく作物も限られている。地域ごとに課題が違うのでそれぞれで採択に向けて組織づくりも違ってくるだろう。辺土名地区で言うのはまず優先する作物を決定したり優先する施設など、ある程度決めないとなかなか話が進まないであろう。作物ごとの組織づくりが必要となってくるだろうし、この際に作物の団地化も計画に含めながら行っていく必要がある。 ②農家、地域の代表、地域の若者これから担っていく若い人達、農業をやっている人がいないにしても先輩方がこういう思いでこの農地を整備しているという事をしっかり伝えていくためには是非必要な事ではないかな	①なかなか集まりを持つ機会がない。 ②事業をすることによって収入の見返りはあるのか、自分たちだけでは集めきれないから農業委員とか経済課とかでもできないかな。 ③ネックになっているのが不在地主者が結構多い事、どう解決すれば良いのか困っている。地区でもほとんどん取り組んで行って合意形成に向けて頑張っていくかなければならない。 ④いろいろな事業があると思うがそれに向けていろんな対応策を見つけて対応していかなければならない。	①説明会を各区・生産部会等の集まりに持って行けば合意形成は取れるのではないかな。 ②事業によっては受益者負担がある、東地区については後継者不足で担い手がいないので、例えばこの事業に投資したとしてあと何年、実際に農業が出来るかと言う話になってくるだろう。後継者不足が根本にあるという事で事業採択するにあたっての話し合いでしか判断できないのではないかな。

話し合いの状況



IV章 地域別の計画書・経済効果の算定

IV章－1. 事業計画について

「平成27年度農業基盤整備促進基本構想策定業務」の結果を踏まえて、効率的な事業管理を図るため、第1回ワーキンググループで検討された「新規地区申請時の確認項目」に基づいて評価表を作成し一定の基

いて評価表を作成し一定の基準に達した事業、及び地区について整備計画を検討する。

○事業及び地区の評価

事業及び地区の総合評価結果に基づいて、前期に整備が必要な地区、中期に取り組む必要がある地区、長期的に検討が必要な地区に整理して下表に示す。

評価結果整理表

項目	事業名	地区数	
		地区数	合計
前期に整備が必要な地区	①通作条件整備事業	3 地区	21 地区
	②農業基盤整備促進事業	11 地区	
	③畑地かんがい整備事業	2 地区	
	④団体営ため池等整備事業	2 地区	
	⑤水質保全対策事業	2 地区	
	⑥農地保全整備事業	1 地区	
中期に整備が必要な地区	①畑地かんがい整備事業	7 地区	9 地区
	②団体営ため池等整備事業	1 地区	
	③農地整備事業	1 地区	
後期に検討が必要な地区	①畑地かんがい整備事業	3 地区	6 地区
	②団体営ため池等整備事業	1 地区	
	③農地整備事業	2 地区	
採択が困難な地区	①通作条件整備事業	2 地区	6 地区
	②農業基盤整備促進事業	2 地区	
	③畑地かんがい整備事業	2 地区	
合計			42 地区

IV章－2. 計画的な農業農村整備事業の推進

○段階的整備について

前項の事業及び地区の評価に基づき、評価点数に応じて、前期、中期、後期の3段階を設定し農業農村整備事業の計画的な推進を図る。

評価点	前 期	中 期	後 期
22点以上	①通作条件整備事業 3地区 ②農業基盤整備促進事業 11地区 ③畑地かんがい整備事業 2地区 ④団体営ため池等整備事業 2地区 ⑤水質保全対策事業 2地区 ⑥農地保全整備事業 1地区		
20点～18点		①畑地かんがい整備事業 7地区 ②団体営ため池等整備事業 1地区 ③農地整備事業 1地区	
16点～14点			①畑地かんがい整備事業 3地区 ②団体営ため池等整備事業 1地区 ③農地整備事業 1地区

事業の緊急性や地域の合意形成が高い地区から順次、事業化に向けて検討を進める。

21地区

事業の熟度、合意形成の醸成に向けて啓発活動を進めていく。

9地区

事業の熟度、合意形成醸成と、併せて高付加価値作物の導入等について関係組織と連携して啓発活動を進めていく。

5地区

○経済効果

現時点における経済効果は、受益地内における現況作付け状況に基づいて概略的に算出しているものである。そのことから事業採択時においては、地域の営農組織や関係団体等と連携を図り、営農計画等を検討のうえ再度経済効果を算出する必要がある。

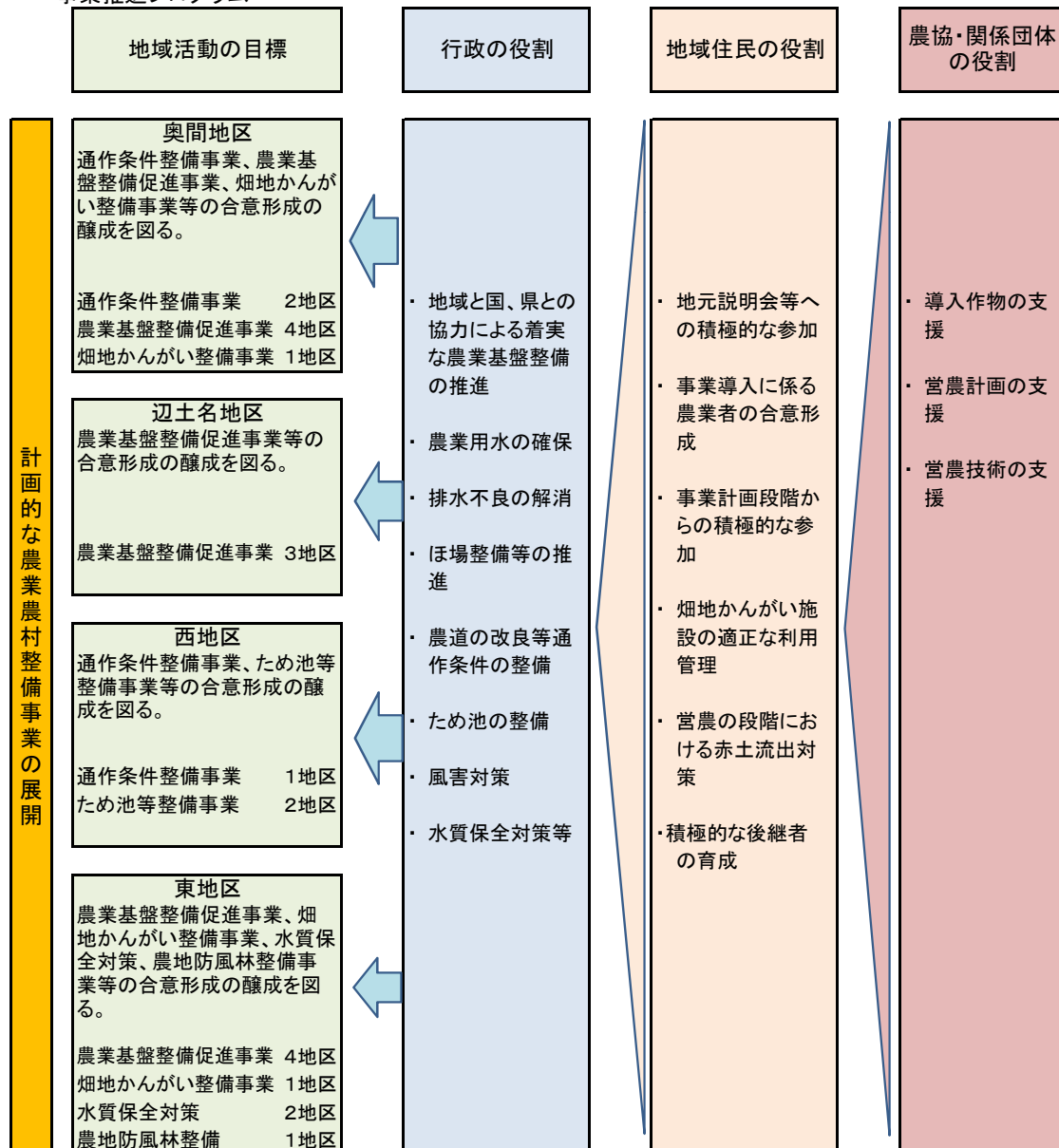
事業別経済効果総括表

事業名	総費用総便益比	
	≥1.0	1.0≥
通作条件整備事業	1地区	2地区
農業基盤整備促進事業	3地区	8地区
畑地かんがい整備事業	0	2地区
ため池等整備事業	1地区	1地区
水質保全対策事業	0	2地区
農地保全整備事業	0	1地区
合計	5地区	16地区

○地域活動の目標・主体別の推進プログラム

前期で整備予定の農業農村整備事業が計画的に事業推進できるよう地域活動の目標・主体別の推進プログラムを下記のとおり整理する。

事業推進プログラム



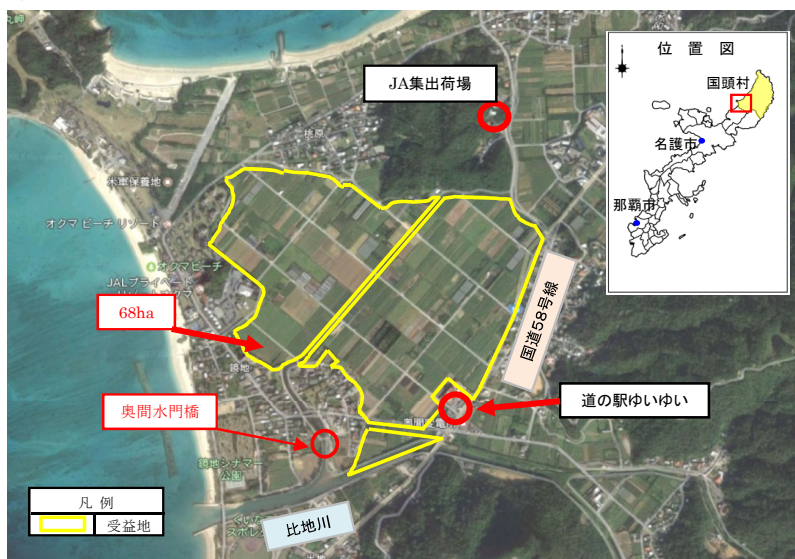
IV章－3. 土地改良法に基づく事業計画書の作成

平成30年度の新規採択希望地区として、以下の2地区について「団体営土地改良事業計画概要書」と「団体営土地改良事業計画書」を作成する。

1) 奥間第1地区

○事業の概要

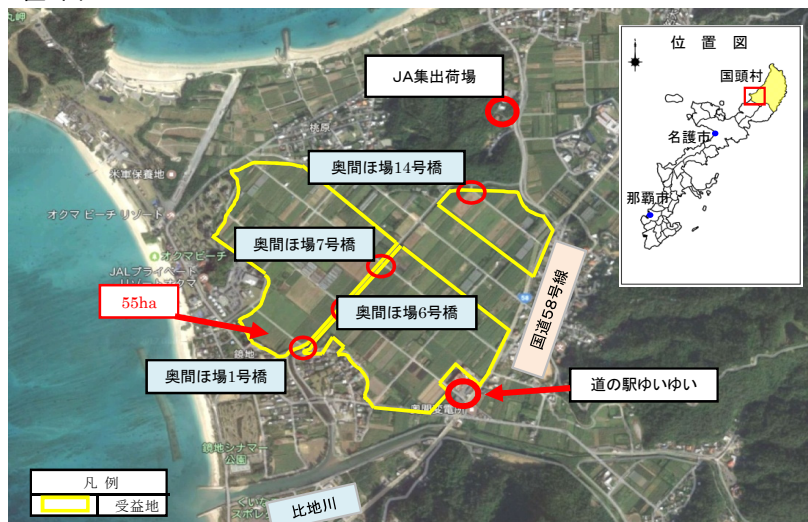
- (1) 受益面積 68.0ha
- (2) 受益戸数 398戸
- (3) 事業主体 国頭村
- (4) 主要工事 水門橋 一式 (W=2.0m、L=14.85m)
- (5) 事業費 130,000千円 (負担区分 国 80%, 県 10%, 村 10%)
- (6) 工期 平成30年度～平成31年度
- (7) 位置図



2) 奥間第2地区

○事業の概要

- (2) 受益面積 55.0ha
- (3) 受益戸数 334戸
- (4) 事業主体 国頭村
- (5) 主要工事 農道橋 4橋 (W=5.0m L=11.40m ~ 18.80m)
- (6) 事業費 14,000千円 (負担区分 国 85%, 県 7.5%, 村 7.5%)
- (7) 工期 平成30年度
- (8) 位置図



V章 今後の農業基盤及び地域づくりの参考情報の提供

○講演会

	題目	講師名	講演内容
第1回	農耕地の土壌環境と作物栽培について	琉球大学農学部 亜熱帯農林環境科学科 耕地利用学研究室 鬼頭 誠	- 日本の農耕地土壌の現状と沖縄の土壌の特徴 - 施肥を行う際に必要な土壌のリアルタイム診断 - 有機質肥料の注意点 - 環境保全に配慮した作物栽培の試験成績
第2回	国頭村における「かんきつ類栽培について」	沖縄県農業研究センター 元職員 金城 秀安	- 隔年結果について - 優良品種について - ユークンブとユークニブについて

第1回講演会状況



第2回講演会状況



第2回講演会でのサンプル資料



※ユークンブとユークニブは同一種
和名: ユークニブ
地方の俗称: ユークンブ

○現地視察研修

今後の国頭村における集落営農組織化に向けての情報提供、啓発活動の一環として現地研修を実施した。

・場所: 宜野座村惣慶

・内容

(1)組織名

宜野座村さとうきび生産組合			
松田支部	宜野座支部	惣慶支部	漢那支部

(2)設立時期

松田支部	宜野座支部	惣慶支部	漢那支部
昭和58年	平成13年	平成13年	昭和60年

(3)構成農家数

松田支部	宜野座支部	惣慶支部	漢那支部
60名	46名	52名	25名

(4)経営耕地面積

単位:ha

松田支部	宜野座支部	惣慶支部	漢那支部
59	27	28	21

(5)組織形態→非法人

(6)経営耕地面積の目標 → 140ha(宜野座村さとうきび生産組合)

(7)総収入 → 生産組合としての収入はなし。
個人の収入となる。

(8)活動内容

- ・栽培管理に関する講習会
- ・トラクターによる管理作業の受託
- ・病害虫共同防除の実施
- ・散水受託作業の実施
- ・ハーベスター収穫の順番調整
- ・ハーベスター・トラクター等の管理
- ・清掃作業(ほ場周辺)

等を行っている。

